OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	序Ⅱ　セッション「21世紀の日中関係」について
Author(s)	田中, 仁
Citation	OUFCブックレット. 2014, 3, p. 15-16
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/27089
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

セッション「21 世紀の日中関係」について

田中　仁

第 7 回国際セミナー「現代中国と東アジアの新環境」(2013 年 8 月 21～22 日，大阪大学）は，「総括セッション：リスク社会―発展・共識・危機」「大学院・若手研究者のセッション：21 世紀の日中関係」と「自由論題によるセッション」の三部編成で開催され，中国・台湾をふくむ約 70 名の研究者により，40 の学術報告と討論が行われた。

このうち「大学院・若手研究者のセッション：21 世紀の日中関係」には，大阪大学（法学研究科・国際公共政策研究科・人間科学研究科・言語文化研究科），立命館大学（文学研究科），広島大学（総合科学研究科）の博士後期課程の大学院生 12 名，中国南開大学歴史学院の博士生 3 名のほか，台湾東華大学から歴史学系碩士生 2 名と同校出身の博士生 2 名（台湾政治大学，中国北京大学）の 19 名が参加した。

木村自先生と私および大学院生 2 名（鄒燦さんと潘鈺林さん）がコーディネーターとなり，セッションのコンセプトと進めかたについて話し合い，具体化と調整を行ない，参加者に対してあらかじめ下記の実施方を示した。

○次世代育成としての大学院・若手研究者のセッション「21 世紀の日中関係」では，これまで 6 回の国際セミナーにおいて大学院生ら若い世代の交流の場としてのプラットフォームを提供してきた経験を活かして，錯綜する東アジアの現況をふまえながら，21 世紀の日中関係を「考え」対話することの意味と意義をほりさげて検討する。(为了更好地培养新一代研究者，基于此前已举办的 6 次国际会议的经验，本届会议专门创建一个

博士研究生等年轻研究者能够充分交流的平台，并以“21 世纪的中日关系”为子课题。希望大家通过该平台，结合自身研究以及对东亚现状的认识，针对 21 世纪的中日关系进行深入思考与对话。）

○各自の研究課題を「現代中国與東亜新格局」（現代中国と東アジアの新環境）に関わる論点と位置づけ，地域研究の学際性と歴史研究の総合性との対話を試みる。（在以往将各自的研究课题与大会主题“现代中国与东亚新格局”相关联的基础上，本届会议希望以年轻研究者的交流平台为契机，结合地域研究的跨学科性和历史研究的综合性进行尝试性对话。）

○報告者（博士課程大学院生）は，それぞれの方法と課題に沿った研究報告を行う。同時にそれが「21 世紀の日中関係」においてどのような意味と意義を有しうるのかについて所見を提示する。（报告者（博士研究生）可根据自己的研究题目及方向进行报告。同时，关于自身的研究课题与认识 21 世纪的中日关系有何关联、或者对于促进中日之间的相互理解有何意义，须提出自己的见解。）

○分科会での個別報告を受けて，「21 世紀の日中関係」に関わる俯瞰的な討論（対話）を行う。（小组讨论时，先进行各自的课题报告，再在之前所提交的关于 21 世纪中日关系的“见解”的基础上，展开共同讨论。）

セッション前半の「分科会」では，「歴史」「政治・社会」「文化・科学」「認識・イメージ」の 4 グループに分かれて個々の研究課題に関わる報告をおこなった。4 グループの編成は下記のとおりである。

歴史：王東，杜慧，王慧婷，鄒燦，和田英男
政治・社会：石羽，林志晟，洪政儀，Tan Tack-Ki
文化・科学：張煜，楊霊琳，陳元棪，潘鈺林，胡毓瑜
認識・イメージ：菊地俊介，黄貞瑜，王坤，周妍，馬瑞潔

後半の「全体会」では，報告者が事前に提出した「21 世紀の日中関係」にかかわる所見に対して 3 人のディスカッサントが「提言」し，次にこの「提言」についてのグループ討論と全体討論を行った。

本書「対話篇」には，セッション後半の「全体会」に対して報告者が事前に提出した「21 世紀日中関係」についての所見，3 人のディスカッサントによる提言，および 4 グループによる討論のまとめを収めた。また「思索篇」収録の諸論考には，公刊を希望する報告者に対してセミナー提出論文の改訂を求め，OUFCbooklet 編集委員会による審査が行われた。